


令和元年度 部長マニフェスト 都市整備部長

部の概要			
所属課と人員 (H31.4.1現在)	都市計画課、道路交通課(工事担当含む)、下水道課、 国立駅周辺整備課(富士見台地域まちづくり担当含む)、 南部地域まちづくり課(都市農業振興担当を含む)	65人	

部の運営方針

先人より受け継がれてきた国立の環境と景観を守り、自分で歩き、自転車で移動できるまちづくり、若者・子育て世代を積極的に呼び込むと共に、多世代が集い支え合い、高齢者が安心して暮らし住み続けることのできるまち、豊かな自然や都市農業、歴史ある文化とともに発展するまち、そして何より人間を大切に、誰も排除しないソーシャルインクルージョンの精神を核に据えたまちづくりを目指します。念願であった旧国立駅舎再築が順調に進み、再築後の利活用についても、まちの玄関口として賑わいと魅力あるまちづくりの発信拠点として、維持管理・各種イベント運営等事業を適切に進めていきます。市域のベルト地域となる富士見台は、まちづくりビジョンに基づき、地域包括ケアシステム機能の導入など、引き続き市民、関係者の意見を聞きながら計画的に進めていきます。また環境保全や良好な景観の形成などの多面的機能・貴重な資源である農業・農地を次世代へと引き継いでいけるよう、多様な形で農業支援を更に取り組んでいきます。南部地域では南武線の高架化・都市計画道路等の進捗に伴い周辺地域での面的な整備、「総合的な土地利用の誘導」、「都市基盤の整備」及び「良好な住環境の整備」を推進するための事業を実施します。地域の特徴を活かしつつ、調和のとれた「文教都市くにたち」を、都市整備部参事が担当する事業と共に、他部署が連携してまちづくりを総合的に進めていきます。

項目	具体的内容	達成状況(年度末評価)	達成度
1 旧国立駅舎再築事業	<ul style="list-style-type: none"> 旧国立駅舎再築工事を他部署と連携し確実に完了させる。 旧国立駅舎の利活用方法に関する検討に基づき、引き続き再築後の管理、運営方法の検討を行い、9月に「公の施設の設置条例」を策定していく。 旧国立駅舎再築事業の機運醸成を図るため、シンポジウム等を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 旧国立駅舎再築を成し遂げた。 再築後の管理、運営方法の検討を行い「旧国立駅舎条例」を第4回定例会で制定した。 本事業の機運醸成に向けシンポジウムを開催し多くの市民に参加いただいた。また旧駅舎の今後の利活用を話し合う連絡会を立ち上げ市民参加により運営している。 開業に向けて地元商業団体とイベント等の計画を進めた。 	A
2 富士見台地域重点まちづくり構想の検討	<ul style="list-style-type: none"> 「富士見台地域まちづくりビジョン」に示したまちの将来像実現のため、令和2(2020)年度までの3か年計画で、重点まちづくり構想の策定に取り組む。 平成30(2018)年度に整理した地域課題や地域資源を基に、市民参加の手法も取り入れ、大学機関との共同研究なども並行して実施する中で平成31年度に構想の素案を策定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 重点構想の策定に向け、令和元年の7月に住民主体のまちづくり協議会を設置し、計3回の協議会と、計4回の市民ワークショップを実施した。 大学機関やUR都市機構などのまちづくり関係者とも連携しながら、住民との丁寧なまちづくりのプロセスを経て、構想の素案ともいえる、まちづくりの整備方針(たたき台)と、今あるまちの資源を空間上でまとめた資源マップを作成した。 	B
3 矢川公共用地に係る施設整備基本計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> 平成30(2018)年3月に策定した「矢川公共用地(都有地)の活用計画」を基に、市民参加の手法も取り入れつつ、地域性、周辺の公共住宅、公的施設にも十分配慮しながら、施設整備の基本計画策定に向けて取り組んでいる。 平成31(2019)年6月の策定を目指し、その後、基本設計、実施設計と順に進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本計画、基本設計の作成にあたっては、市民ワークショップを実施すると共に、周辺自治会との調整も行き、市民意見の反映に努めた。 矢川プラスの整備に向けては、令和元年6月に基本計画を策定、11月に基本設計で設計上の骨子をまとめた。12月より運用面の配慮、関係各課との連携による設計の詳細を詰めながら実施設計を進めている。 	A
4 南部地域整備事業 企業誘致促進事業	<ul style="list-style-type: none"> 南部地域における都市基盤を整備するため、道路整備事業を進める。 市道優先整備路線の八王子道における道路拡幅整備は、これまで用地取得が約50%完了しており、31年度は約30%の進捗、全体で用地取得率80%の完了を目指す。 地域の活性化と雇用の拡大を目指し、企業誘致促進事業を進める。今年度内に、1件以上の指定企業誘致を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 市道八王子道の道路拡幅整備に向けて複数の案件で用地売買契約を進め、用地取得率は約72%の見込みとなり、また用地取得に向けた調査・協議の進捗は約80%となった。 1件の企業誘致の指定を行った。また企業誘致に資する新たなパンフレットを作成し事業促進に向け進めている。 	B
5 農業未来構想推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 農業振興のために優先的に取り組むテーマについて、農業者等の関係者と共に具体的事業を検討し、施策を実現していく。 特定生産緑地制度、Uターン農地等の生産緑地追加指定、及び都市農地貸借円滑化法について十分な周知を図り、制度の活用を推進する。 城山さとのいえを農業の情報発信の拠点として、市民へ農業の理解を促進するための情報発信や収穫体験等の企画の充実を図り、平成30年度を上回る来館者数を目標とする。(平成30年度来館者数18179名) 	<ul style="list-style-type: none"> 農業者勉強会で地場産野菜PR施策の具体的な手法について取り組んだ。マルシェ事業も定着し昨年比では大きく上回る来場者数となった。 農業者ヘリフレットの個別配布や、他課連携し説明会を複数回開催して法制度の周知に努めた。 収穫体験や稲作体験などのイベントを中心に、実施回数を昨年比15.5%増、来館者も14.5%増を達成できた。 	A

【達成度】 A...100% B...80%以上100%未満 C...50%以上80%未満 D25%以上50%未満 E25%未満